

学会ホームページ <http://jasce.jp>

071号 (2023年6月30日)

目次

第19回全国大会情報
『協同と教育』への投稿募集中
第7回オンライン講座を開催しました
第8回オンライン講座「日本の協同学習」のご案内
認定ワークショップに関するアンケート結果のお知らせ
各地の研究会・勉強会
出版情報

第19回全国大会情報

前号のニュースレターでお知らせしたとおり、第19回大会を2023年11月4日(土)～5日(日)に開催します。本大会では「協同学習から探究を問いなおす」をテーマに、学生・生徒・児童一人一人の探究の学びを、主体的な学びとの関連も視野に入れ、協同学習を通してよりクリアにしていきたいと思います。1日目午後には協同教育と探究学習との関連を探っていく記念講演を開催する予定です。みなさまの参加をお待ちしています。

1. 大会テーマ

「協同学習から探究を問いなおす」

2. 大会日程

1日目：2023年11月4日(土)

2日目：2023年11月5日(日)

3. 開催方法

対面開催

4. 発表形式

口頭発表(研究発表と実践報告の2タイプ、発表20分質疑10分)

ラウンドテーブル(120分。ただし90分・180分も設定可能)

ワークショップ(120分。ただし90分・180分も設定可能)

5. 発表申込募集期間

締切日 2023年7月24日(月)

※現在発表募集中

大会で発表できるのは、**令和5(2023)年度までの会費完納者に限ります**。今年度の会費未納の方は発表要旨の原稿提出までに納入をお済ませください。なお、非会員の方と連名で発表される場合、発表代表者は会員の方に限ります。

6. 発表要旨原稿受付
締切日 2023年8月21日(月)
※現在原稿受付中

7. 参加申込受付

締切日 2023年10月20日(金)

※現在申込期間中

当日の受付を円滑に運ぶために、事前振込にご協力ください。

8. 大会参加費及び振込口座(年会費の振込口座とは異なります)

会員・非会員を問わず、一律に5,000円です。

◇郵便局で「振込取扱票」をお使いの場合

口座記号・番号 00290-4-92020

加入者名 日本協同教育学会大会実行委員会

◇銀行振込の場合

金融機関名 ゆうちょ銀行

支店 ○二九

口座番号(当座) 0092020

名義 日本協同教育学会大会実行委員会

9. 大会参加者専用サイト

学会ホームページにて参加者専用のサイトを開設しています。

10. 大会に関する問合せ先

日本協同教育学会大会実行委員会

〒732-8509 広島県広島市東区牛田新町4丁目1-1

比治山大学 佐々木淳研究室内

E-mail: taikai@jasce.jp

お問い合わせはE-mailでお願い致します。件名に「日本協同教育学会第19回大会」の文言を入れてください。

第19回大会実行委員長 佐々木 淳

『協同と教育』への投稿募集中

『協同と教育』への投稿を随時受け付けています。次号は第19号が刊行されますが、投稿受理から査読を経て採択が決定されるまでに通常数ヶ月以上を要するため、掲載はそれ以降の号になる可能性があります。みなさまの積極的な投稿をお待ちしております。

第7回オンライン講座を開催しました

2023年6月10日(土)に第7回「オンライン講座」を開催しました。参加者は会員27名と未会員2名の29名でした。

JASCE

今回は、「日本の協同学習（日本協同教育学会編，ナカニシヤ出版）」の「第6章 協同学習への教育方法学からのアプローチ -勉強(学習)から学びへの転換-」を執筆された水野正朗先生（東海学園大学教授）を講師としてお招きし、ワークショップ形式での講座を実施していただきました。ご講演では近代日本からの教育の変遷についてご紹介いただきました。また、参加者同士のディスカッションでは参加者自らの実践と関連付けながら活発な議論が展開されていたようでした。オンライン講座終了後のアンケートでは、「教育方法に関する歴史的な変遷からの『温故知新』だけでなく、今現在の教育の様々な課題とそれを乗り越えるための手がかりを得られたように思います」や「見問見答という言葉が印象に残りました。学生が自ら疑問を持ち自ら解決し答えを得る、それが学びとなる。そうなるよう仕向けていくことが教師の役割ということがよくわかりました。深いつながりを持つことを苦手とする学生の特性を踏まえて、教育方法を考えていく必要があることがよくわかりました」といった感想が寄せられました。

研修委員会 (kenshu@jasce.jp)

第8回オンライン講座「日本の協同学習」のご案内

2023年9月30日(土) 14時から、第8回オンライン講座「日本の協同学習」を開催いたします。この講座は、学会設立15周年を記念して会員の皆さまに配本した『日本の協同

学習』(2019, ナカニシヤ出版)をテキストとして1章ずつ学ぶものです。第8回は三重大学教授の中西良文先生と三重大学准教授の長濱文与先生を講師としてお迎えし、第7章「日本における協同学習の実証的研究」のご講話と、そのご講話に基づく参加者間の交流を予定しています。学会ホームページから参加の申し込みをされた方にZoomのアドレスを送付いたします。テキストをご準備いただければ、未入会の皆様の参加も大歓迎です。参加費は無料です。皆さまのご参加をお待ちして

おります。

問い合わせ先：研修委員会 (kenshu@jasce.jp)

認定ワークショップに関するアンケート結果のお知らせ

認定ワークショップに関するアンケートへのご協力をありがとうございました。

「多くの方が参加しやすい認定ワークショップ」の開催に向けて、学会員の皆さまのニーズを教えてくださいたく、6月4日に学会のメーリングリストを用いて回答をお願い

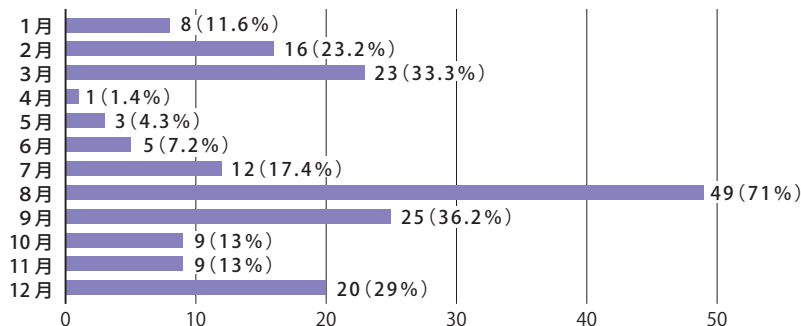


図1 ワークショップを受講しやすい時期(複数回答可)

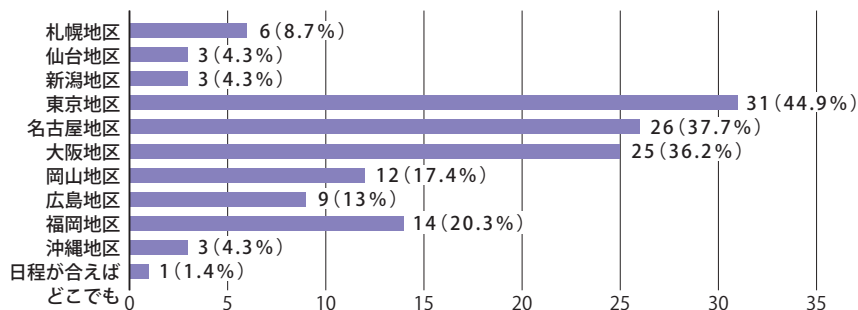


図2 ワークショップを受講しやすい地区(複数回答可)

JASCE

いたしました。6月18日時点で69件のご回答をいただきました。ご協力ありがとうございました。研修委員会として大変参考になりました。図1や図2にあるように開催地や開催時期によるとは思いますが、開催された場合、受講したい(必ず受講したい、できれば受講したい)という回答者の人数比は、ベーシックコースで62.3%、アドバンスコースで62.3%、マスターコースで34.8%、一日研修で63.8%でした。また、自由記述のご意見やご希望にはさまざまなアイデアが提言されており、今後の企画・運営に活かして行ければと考えています。現在、研修委員会では全てのコースの今年度開催のための準備を進めております。決定したものを順次、学会HPやニューズレター、メーリングリストを用いてご案内いたします。

なお、アンケートサイト (<https://forms.gle/Fdyq2wak4k5BDGs8>) は7月9日まで回答可能にしております。ご回答をお待ちしております。

問い合わせ先：研修委員会 (kenshu@jasce.jp)

各地の研究会・勉強会

(大阪地域)

協同学習を用いた看護教育研究会

◇2023年度の「協同学習を用いた看護教育研究会」は、5月20日、8月19日、11月18日、1月20日(予定)、3月10日(予定)に開催致します。2023年度の本研究会の副代

表はト部紘子先生(企画・運営兼任)、企画・運営委員(50音順)は、荒巻富美先生、織田千賀子先生、小八重和子先生、堀川真知子先生、牧野典子先生、室住実恵先生です。宜しくお願い申し上げます。

◇第48回「協同学習を用いた看護教育研究会」は、2023年5月20日(土)14:00～17:30にグランフロント大阪北館2階のナレッジキャピタル「The Lab」アクティブスタジオで開催しました。参加者は34名で、沖縄・長崎・兵庫・大阪・京都・愛知・静岡・東京・北海道から集われ、初参加の方は6名でした。創価大学の関田一彦先生もご出席してくださいました。懇親会(場所:WWW.W)には30名の方が参加され交流を深め合うことができました。

今回のテーマは「看図アプローチ・理論編」で、講師に北海道教育大学名誉教授、全国看図アプローチ研究会会長の鹿内信善先生をお招きしました。看図アプローチに用いられている「きゅうちゃん」の開発者、石田ゆき先生も同行されました。看護実践には、正しい知識を根拠に五感を働かせて「見る・観察する・気づく」観察力が重要です。看図アプローチに用いられる「変換」「要素関連づけ」「外挿」のステップは、よく観察すること、収集した情報を関連づけて解釈・推論し、必要な看護を判断していくプロセスへの活用に有益です。そこで、今回の企画では看図アプローチの基本的理解と、特に「外挿」における発問の構成を学び合い、看護学生の観察力と臨床判

断能力を育む授業に活用していくことを目的としました。

研究会終了後のアンケートでは、自身の参加目的に対して全員が「とても満足できた・ある程度満足できた」と回答されました。具体的な学びとして「発問づくりで、HOW発問は多様な発想や思考を引き出しやすいが、「HOW発問疲れ」を起こさないような問づくりが大切であることを学んだ」、「オープンエンドの解答に納得解を見つけること、そこには専門職としての視点が必要」、「仲間とのディスカッションによって知識や視点を広げ自身の納得解が得られる」「臨床判断能力の推論パターンについて、とっつきやすく楽しく取り組めるきゅうちゃんを用いることで理解しやすかった」などの記述がありました。(文責：緒方巧)

◇今後の開催予定

次回(第49回)は、8月19日(土)13:30～17:00、会場は藤田医科大学、テーマは「看図アプローチ・実践編」で、内容は鹿内信善先生の講義、VR(Virtual Reality)看図アプローチの授業実践報告とVR看図アプローチの体験を予定していま



5月20日(土) 研究会

JASCE

す。是非ご参加下さい。

問い合わせ先：代表：緒方巧
(t-ogata@baika.ac.jp)

(名古屋・東海方面)

名古屋・協同の学びをつくる研究会
◇2023年5月例会を5月20日(土)
13時30分から名古屋大学教育学部・共通講義棟第3講義室で開催しました。テーマは「アクティブ・ラーニング〈キャラバン〉: 教職学生によるAL授業実践の学び」。報告者は、中京大学文学部研究会「アクティブ・ラーニング研究会」に所属して自主的な授業研究活動を行っている教職志望の学生たちと顧問の小塩卓哉先生(中京大学)。参加者は30名でした。

学生たちは、学内でALの勉強会や模擬授業を行うとともに積極的に学外に遠征(キャラバン)しています。具体的には中学校や高等学校に出向いての国語授業の実践、アク

ティブ・ラーニングを活用した教育イベント(短歌道場)等です。前半では、その活動の様子が報告されました。

後半では、例会参加者を生徒、学生を教師にした模擬授業が行われました。これは、郡上市立高須中学校へのキャラバンで実践した国語AL授業(教材:三浦哲朗『盆土産』)をさらに改良した授業への挑戦でした。参加者からは「参加してとても楽しかった」「グループ活動の成果を紹介しあい、『田舎VS都会』の視点など、自分では気づかなかった<読み>に出会ってはっとした」などの感想がありました。例会出席者が全員参加で国語を楽しむことができました。

◇次回の例会は、7月15日(土)に開催する予定です。報告者は、久川慶賀先生(春日井市立藤山台小学校)です。第17回記念大会シンポジウム「『令和の日本型学校教育』と

協同教育」から2年。久川先生たちのICTを自在に活用した教育実践がその後どのように変化、発展したかをご報告いただき、これからの学校教育についての議論を深めたいと思います。

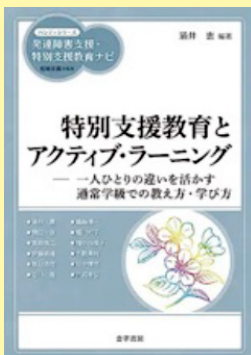
連絡先：水野正朗(東海学園大学
mizuno-ma@tokaigakuen-u.ac.jp)



● 出版情報 ●

特別支援教育とアクティブ・ラーニング

～一人ひとりの違いを活かす通常学級での教え方・学び方～



金子書房より、涌井恵 編著、柘植雅義 監修(シリーズ監修)『特別支援教育とアクティブ・ラーニング ～一人ひとりの違いを活かす通常学級での教え方・学び方～』が出版されました(価格は1,300円+税)。発達障害児など多様な子どもが共に学ぶ通常学級における「アクティブ・ラーニング(主体的・対話的で深い学び)」を進めるポイントを、理論的背景や実践をもとに紹介しています。特に、第2章では本学会元会長の関田一彦先生により、アクティブ・ラーニングと協同学習の関係、また協同学習と協調学習の関係について論考頂きました。似ていて説明の難しい用語について、その相違の分かり易い説明があり、頭を整理できます。その他、アクティブ・ラーニングによる学級経営、自己調整学習との関係、価値のインストラクション、学校経営、それから特別な支援を要する児童を含む一人ひとりの違いを活かした協同学習の実践の数々が収録されています。是非手に取って頂ければ幸いです。